OLYMPUS

# 2019年3月期 第2四半期 連結決算概況と通期見通し

2018年11月6日
オリンパス株式会社
取締役副社長執行役員 CFO
竹内 康雄

## 免責事項

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。


No data copy / No data transfer permitted

ハイライト

## 上期実績

■ 連結
- 売上： 主力の医療事業が全社業績を牽引し、3%増収
- 利益： 証券訴訟の和解金等の影響により減益

## 通期業績見通し

■ 米国司法省による十二指腸内視鏡の調査関連引当金の計上、および映像事業の業績動向を考慮し、通期計画を修正

 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- 今回の決算における主なポイント

- 上期の連結実績
- 主力の医療事業が上期実績として過去最高の売上高を更新し、前年同期比で3%の増収となり、全社業績を牽引
- 機関投資家との証券訴訟に伴う和解金や、中国生産子会社の操業停止に伴う費用等を計上したことに加え、第2四半期において、当社が製造・販売している十二指腸内視鏡に関して、米国司法省による調査の状況を鑑み、必要と認められる引当金97億円を計上したことにより、減益

- 通期業績見通し
- 今医療事業での引当金の計上および、映像事業の業績動向を考慮し、通期計画を修正

# 2019年3月期 第2四半期
# 連結業績および事業概況


No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS

## 2019年3月期 第2四半期実績 ①連結業績概況

❶ 売上高は医療事業が堅調に推移し、前年同期比3%の増収を達成

❷ 証券訴訟の和解金、米国司法省による調査関連引当金（97億円）等計上により、減益

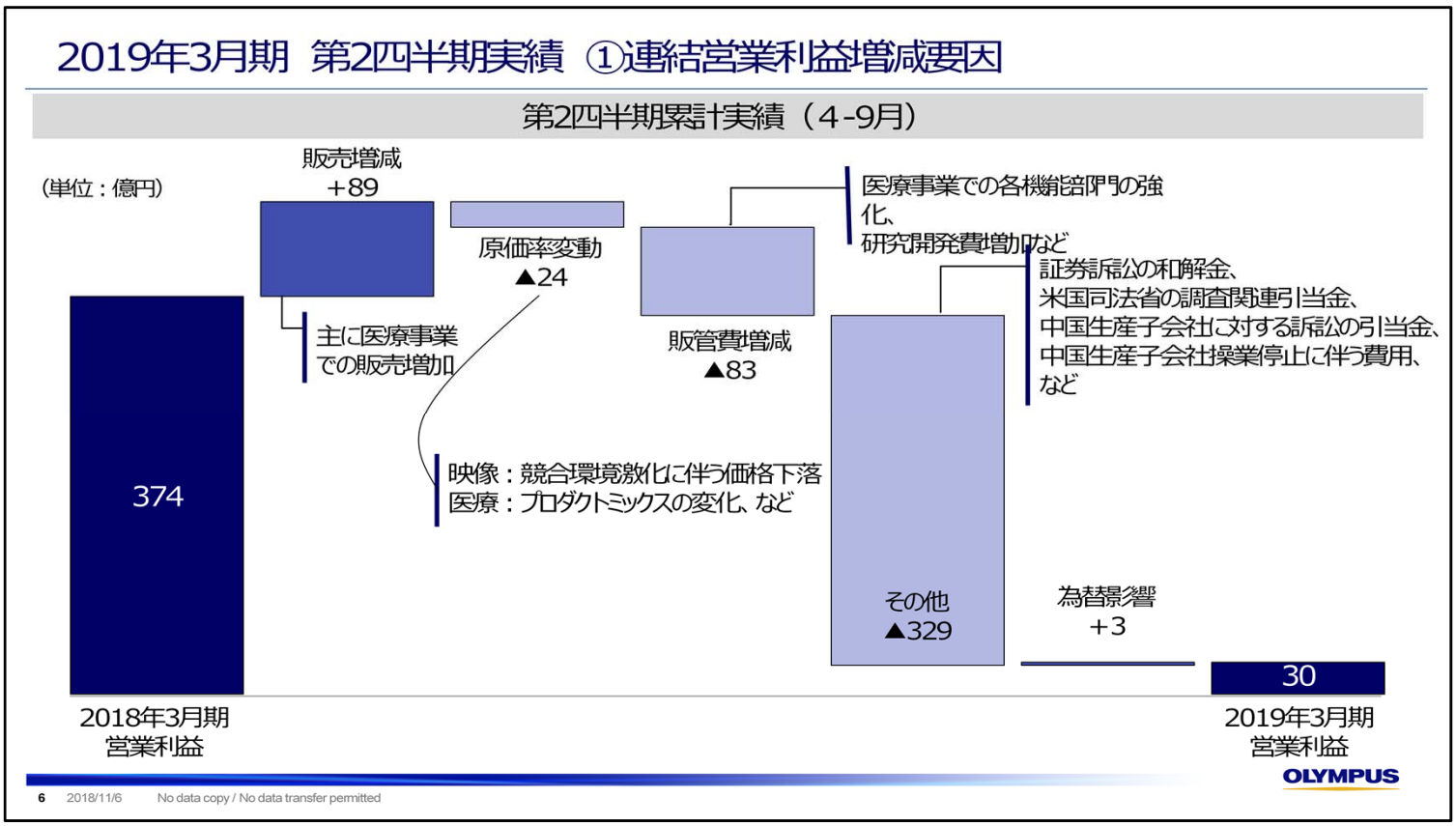
| （単位：億円） | 2Q累計実績（4-9月） 2018年3月期 | 2019年3月期 | 前年同期比 | 為替影響調整後 | 2Q実績（7-9月） 2018年3月期 | 2019年3月期 | 前年同期比 | 為替影響調整後 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 売上高 | 3,694 | ❶ 3,818 | +3% | +3% | 1,976 | 2,013 | +2% | +2% |
| 売上総利益（売上総利益率） | 2,418 (65.4%) | 2,488 (65.2%) | +3% | +3% | 1,289 (65.2%) | 1,305 (64.8%) | +1% | +1% |
| 販売費および一般管理費（販売費および一般管理費率） | 2,035 (55.1%) | 2,124 (55.6%) | +4% | +4% | 1,040 (52.6%) | 1,074 (53.3%) | +3% | +4% |
| その他の収益および費用等 | ▲8 | ❷ ▲335 | - | - | ▲2 | ▲85 | - | - |
| 営業利益（営業利益率） | 374 (10.1%) | 30 (0.8%) | ▲92% | ▲93% | 247 (12.5%) | 146 (7.3%) | ▲41% | ▲41% |
| 税引前損益（税引前利益率） | 352 (9.5%) | ▲28 (-) | ▲379億円 | | 232 (11.8%) | 119 (5.9%) | ▲49% | |
| 親会社の所有者に帰属する当期損益（親会社の所有者に帰属する当期利益率） | 298 (8.1%) | ▲55 (-) | ▲353億円 | | 198 (10.0%) | 112 (5.6%) | ▲43% | |
| 円／USドル | 111円 | 110円 | | | 111円 | 111円 | | |
| 円／Euro | 126円 | 130円 | | | 130円 | 130円 | | |

5 2018/11/6 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- 連結の業績概況

- 上期の連結売上高は主力の医療事業が牽引し、前年同期比で3%増収の3,818億円
- 営業利益は、1Qに計上した証券訴訟和解金、中国生産子会社に対する訴訟引当金に加え、2Qにおいて米国司法省による調査関連の引当金97億円を計上したこと等により、30億円
- 税引前損益は、為替差損の計上に伴う金融収支の悪化等により、28億円の損失
- 当期損益は55億円の損失




- 上期の営業利益の主な増減要因

- 販売増減：医療事業および科学事業で増収となった結果、89億円プラスに寄与
- 原価率：映像事業で競合環境の激化により販売単価が下落していることや、医療事業におけるプロダクトミックスの影響等により悪化し、24億円のマイナス要因

- 販管費増加：主に医療事業において、各機能部門の強化等によって、人員が増加したこと、また次世代消化器内視鏡システムの研究開発費が増加したことによるもの

- その他：主に証券訴訟の和解金、米国司法省による調査関連の引当金、中国生産子会社に対する訴訟の引当金、中国生産子会社操業停止に伴う費用等を計上したことによるもの

- 為替影響を加えた結果、営業利益は30億円

## 2019年3月期 第2四半期実績 ②セグメント別概況

❶ 医療：上期として過去最高の売上高を更新。営業利益は、米国司法省の調査関連引当金により、前年並み
❷ 科学：産業分野の好調な市況を背景に、増収増益を達成
❸ 映像：中国生産子会社操業停止に伴う費用計上等により、営業損失を計上

| (単位：億円) | | 2Q累計実績（4-9月） 2018年3月期 | 2019年3月期 | 前年同期比 | 為替影響調整後 | 2Q実績（7-9月） 2018年3月期 | 2019年3月期 | 前年同期比 | 為替影響調整後 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 医療 | 売上高 | 2,893 | 3,056 | +6% | +5% | 1,548 | 1,617 | +4% | +5% |
| | 営業利益 | 554 | 547 | ▲1% | ▲1% | 322 | 273 | ▲15% | ▲15% |
| 科学 | 売上高 | 446 | 473 | +6% | +6% | 246 | 262 | +6% | +7% |
| | 営業利益 | 13 | 28 | +123% | +120% | 18 | 32 | +73% | +68% |
| 映像 | 売上高 | 306 | 257 | ▲16% | ▲16% | 154 | 118 | ▲24% | ▲23% |
| | 営業利益 | 16 | ▲92 | ▲108億円 | ▲111億円 | 7 | ▲34 | ▲42億円 | ▲40億円 |
| その他 | 売上高 | 50 | 32 | ▲35% | ▲35% | 27 | 16 | ▲41% | ▲41% |
| | 営業利益 | ▲12 | ▲14 | ▲2億円 | ▲2億円 | ▲7 | ▲7 | - | - |
| 全社・消去 | 売上高 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 営業利益 | ▲197 | ▲439 | ▲242億円 | ▲243億円 | ▲93 | ▲117 | ▲23億円 | ▲24億円 |
| 連結合計 | 売上高 | 3,694 | 3,818 | +3% | +3% | 1,976 | 2,013 | +2% | +2% |
| | 営業利益 | 374 | 30 | ▲92% | ▲93% | 247 | 146 | ▲41% | ▲41% |

 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- セグメント別の概況

- 医療事業は上期として過去最高の売上高を計上し、全社業績を牽引
- 営業利益は、引当金を計上したものの、前年並みを確保

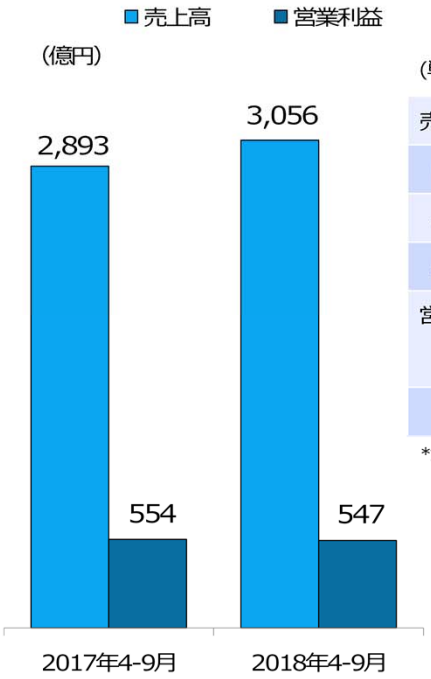
- 科学事業は特に産業分野で、好調な市況を要因に増収増益を達成

- 映像事業は減収となり、営業損益は、中国生産子会社の操業停止に伴う費用計上等によって、損失を計上

- その他事業は、コンパクトカメラ向けのレンズユニットの外販を終了したこと等により減収となり、損失額が拡大

- 全社・消去には、証券訴訟の和解金および、中国生産子会社に対する訴訟の引当金が含まれる

## 2019年3月期 第2四半期実績 ③医療事業




| (単位：億円) | 第2四半期累計実績（4-9月） FY2018 | FY2019 | 前年同期比 | 為替影響調整後 | 第2四半期実績（7-9月） FY2018 | FY2019 | 前年同期比 | 為替影響調整後 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 売上高 | 2,893 | 3,056 | +6% | +5% | 1,548 | 1,617 | +4% | +5% |
| 内視鏡 | 1,565 | 1,639 | +5% | +5% | 837 | 876 | +5% | +5% |
| 外科 | 941 | 1,008 | +7% | +7% | 512 | 534 | +4% | +5% |
| 処置具 | 387 | 409 | +6% | +5% | 199 | 208 | +4% | +5% |
| 営業利益 | 554 | 547 | ▲1% | ▲1% | 322 | 273 | ▲15% | ▲15% |
| その他の損益* | ▲15 | ▲69 | - | - | ▲7 | ▲78 | - | - |
| 営業利益率 | *19.1%* | *17.9%* | | *18.0%* | *20.8%* | *16.9%* | | *16.7%* |

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

**売上高**
- ✓ 医療事業は全分野で好調に推移し、上期で過去最高の売上高を達成

**営業利益**
- ✓ 米国司法省による十二指腸内視鏡調査関連の引当金（97億円）を計上したことで、上期の営業利益は前年並みの水準
- ✓ 引当金計上の影響を除くと、2Qおよび上期のいずれも2桁増益

 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- 医療事業
- 売上高：内視鏡、外科、処置具の全分野で増収となり、前年同期比6%増の3,056億円
- 営業利益：前年同期比1%減の547億円、営業利益率は前年同期比1.2ポイント減の17.9%
- 現在、米国司法省より十二指腸内視鏡に関する調査を受けており、第2四半期ではその状況を鑑み、必要と認められる引当金97億円を計上したことにより、減益
- この引当金の影響を除くと、第2四半期および上期のいずれも2桁の増益

## 2019年3月期 第2四半期実績 ③医療事業

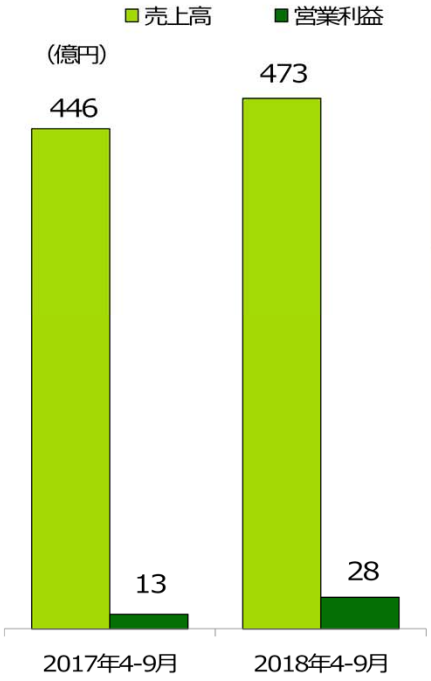
| 分野 | 地域 | 現地通貨別成長率 | | | 分野別の状況 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | FY2018 | | FY2019 | |
| | | 上期 | 通期 | 上期 | |
| 内視鏡 | 日本<br>北米<br>欧州<br>豪亜<br>全地域 | ▲2%<br>▲3%<br>▲7%<br>+8%<br>▲1% | ▲2%<br>+1%<br>▲1%<br>+10%<br>+2% | ▲7%<br>+6%<br>+5%<br>+12%<br>+5% | • 日本：主力製品がライフサイクル後半に入っていることに加え、公的/公立病院を中心に予算獲得の厳しい状態が続き、マイナス成長<br>• 欧米：セールスプロモーションや保守を含めた販売が堅調に推移<br>• 豪亜：中国を中心に、アジア・オセアニア地域で高い成長を維持 |
| 外科 | 日本<br>北米<br>欧州<br>豪亜<br>全地域 | +4%<br>0%<br>+10%<br>+17%<br>+5% | +9%<br>+2%<br>+6%<br>+10%<br>+6% | +5%<br>+8%<br>+6%<br>+4%<br>+7% | • 日欧：主力システム「VISERA ELITE Ⅱ」およびエネルギーデバイスが堅調に推移<br>• 北米：ISM社の買収効果により、システムインテグレーション製品の売上が大幅に増加し、成長に大きく貢献 |
| 処置具 | 日本<br>北米<br>欧州<br>豪亜<br>全地域 | +8%<br>+3%<br>+1%<br>+21%<br>+8% | +7%<br>+4%<br>+3%<br>+16%<br>+7% | +1%<br>+11%<br>+5%<br>+8%<br>+5% | • 全地域でプラス成長を確保<br>• 北米：特に市場ニーズを捉えた差別化製品等を積極的に導入し、好調に推移 |

 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- 為替を除く実質ベースでの分野別、地域ごとの状況
- 消化器内視鏡分野：
- 日本は主力製品のライフサイクルが後半に入っていることに加え、公的/公立病院を中心に予算獲得の厳しい状態が続き、マイナス成長
- 下期に導入を予定している新製品等の販売や、前期に導入した経鼻内視鏡や大腸内視鏡の拡販により、挽回できる見通し
- 北米と欧州は、セールスプロモーションや保守を含めた販売施策の強化により、堅調に推移
- アジア・オセアニアでは、中国を中心に高い成長を維持
- 外科分野：
- 日本と欧州は、主力システム「ビセラ・エリート・ツー」および、エネルギーデバイスが堅調に推移
- 北米は、ISM社の買収効果により、システムインテグレーション製品の売上が大幅に増加し、成長に大きく貢献
- 処置具分野：
- プラス成長を確保
- 特に北米は、市場ニーズを捉えた差別化製品が売上を伸ばしており、好調に推移

## 2019年3月期 第2四半期実績 ④科学事業




| (単位：億円) | 第2四半期累計実績（4-9月） FY2018 | FY2019 | 前年同期比 | 為替影響調整後 | 第2四半期実績（7-9月） FY2018 | FY2019 | 前年同期比 | 為替影響調整後 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 売上高 | 446 | 473 | +6% | +6% | 246 | 262 | +6% | +7% |
| 営業利益 | 13 | 28 | +123% | +120% | 18 | 32 | +73% | +68% |
| その他の損益* | ▲2 | ▲1 | - | - | ▲2 | ▲1 | - | - |
| 営業利益率 | *2.8%* | *5.9%* | | *5.9%* | *7.5%* | *12.1%* | | *11.7%* |

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

**売上高**
- ✓ 生物顕微鏡：北米、中国を中心に売上が堅調に推移
- ✓ 産業製品　：半導体、電子部品、自動車等、産業市場の良好な市場環境を背景に、工業用顕微鏡や非破壊検査装置の販売が好調

**営業損益**
- ✓ 増収効果により、大幅増益

OLYMPUS

10 2018/11/6 No data copy / No data transfer permitted

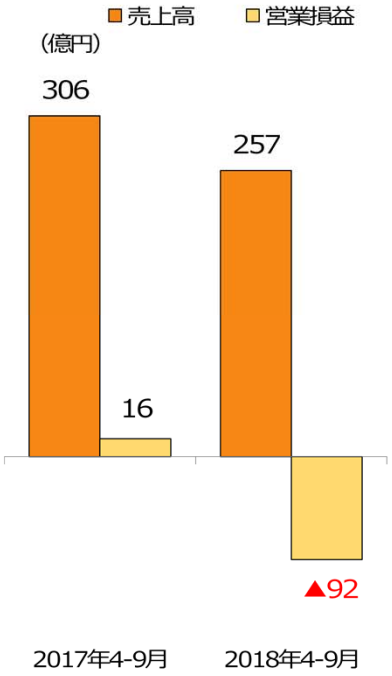
- 科学事業

- 売上高：前年同期比6%増収の473億円
- 営業利益：前年同期比123%増益の28億円

- 生物顕微鏡は、北米、中国を中心に堅調に推移
- 産業製品は半導体、電子部品、自動車等の市場環境が良好であり、特に工業用顕微鏡や非破壊検査機器の販売が好調に推移

- 営業利益は、生物顕微鏡、産業製品ともに売上を伸ばしたため、大幅な増益

## 2019年3月期 第2四半期実績 ⑤映像事業




| (単位：億円) | 第2四半期累計実績（4-9月） FY2018 | FY2019 | 前年同期比 | 為替影響調整後 | 第2四半期実績（7-9月） FY2018 | FY2019 | 前年同期比 | 為替影響調整後 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 売上高 | 306 | 257 | ▲16% | ▲16% | 154 | 118 | ▲24% | ▲23% |
| ミラーレス | 233 | 188 | ▲19% | ▲20% | 117 | 84 | ▲28% | ▲27% |
| コンパクト | 47 | 40 | ▲15% | ▲15% | 24 | 20 | ▲18% | ▲17% |
| その他 | 26 | 29 | 12% | 12% | 14 | 14 | ▲1% | 0% |
| 営業損益 | 16 | ▲92 | ▲108億円 | ▲111億円 | 7 | ▲34 | ▲42億円 | ▲40億円 |
| その他の損益* | 0 | ▲53 | - | - | 0 | ▲4 | - | - |
| 営業利益率 | *5.3%* | - | | - | *4.7%* | - | | - |

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

**売上高**
✓ 競合環境の激化および、生産拠点の再編に伴い、交換レンズを中心に製品の供給に制約が生じた影響もあり、減収

**営業損益**
✓ 生産構造改革費用（中国生産子会社操業停止に伴う費用）を主な要因として、営業損失を計上

 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- 映像事業
- 売上高：前年同期比16%減の257億円、営業損益は、92億円の損失
- ミラーレス一眼は、競合環境の激化および、生産拠点の再編に伴い、交換レンズを中心として、製品の供給に制約が生じた影響もあり、前年同期比19%の減収
- 営業損益は、中国生産子会社操業停止に伴う費用52億円を主な要因として、92億円の損失
- なお、この費用には、生産拠点の再編に伴い、一部製品の供給に制約が生じたことによる売上減少等の影響は含んでいない

## 財政状態計算書

■ 有利子負債を425億円圧縮し、自己資本比率は47.0%

| (単位：億円) | 2018年3月末 | 2018年9月末 | 増減額 |
|---|---|---|---|
| 流動資産 | 5,143 | 4,596 | ▲547 |
| 棚卸資産 | 1,393 | 1,521 | +128 |
| 非流動資産 | 4,644 | 4,797 | +154 |
| 有形固定資産 | 1,682 | 1,762 | +80 |
| 無形資産・その他 | 1,989 | 1,999 | +10 |
| のれん | 972 | 1,036 | +64 |
| 資産 合計 | 9,787 | 9,394 | ▲393 |

| | 2018年3月末 | 2018年9月末 | 増減額 |
|---|---|---|---|
| 流動負債 | 3,059 | 3,007 | ▲53 |
| 社債及び借入金 | 888 | 817 | ▲71 |
| 非流動負債 | 2,285 | 1,963 | ▲322 |
| 社債及び借入金 | 1,592 | 1,237 | ▲355 |
| 資本 | 4,443 | 4,424 | ▲18 |
| 自己資本比率 | *45.2%* | *47.0%* | *+1.8pt* |
| 負債及び資本 合計 | 9,787 | 9,394 | ▲393 |

有利子負債：2,054億円（2018年3月末比▲425億円）

 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- 財政状態
- 借入金等の返済により総資産を圧縮した結果、自己資本比率は前期末比で1.8ポイント上昇し、47%
- 資産の状況は、棚卸資産が128億円増加したが、これは主に年度末の出荷に向けた在庫の影響によるもの

## 連結キャッシュフロー計算書

■ FCF：証券訴訟の和解金190億円の支出により、フリーキャッシュフローは40億円のマイナス

第2四半期累計実績

| （単位：億円） | 2018年3月期 | 2019年3月期 | 増減 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 3,694 | 3,818 | +124 |
| 営業利益 | 374 | 30 | ▲344 |
| 営業利益率 | *10.1%* | *0.8%* | - |
| 営業キャッシュフロー | 426 | 274 | ▲152 |
| 投資キャッシュフロー | ▲297 | ▲314 | ▲17 |
| フリーキャッシュフロー | 129 | ▲40 | ▲169 |
| 財務キャッシュフロー | ▲347 | ▲582 | ▲235 |
| 現金及び現金同等物期末残高 | 1,813 | 1,309 | ▲504 |
| 減価償却費 | 255 | 283 | +28 |
| 設備投資額 | 306 | 311 | +5 |

 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- キャッシュフローの状況
- 営業キャッシュフロー：証券訴訟の和解金支払いもあり、274億円
- 投資キャッシュフロー：医療事業のデモ・ローナー品等の有形固定資産取得による支出および、泌尿器科ビジネス強化のため、Cybersonics社の尿路結石治療機器に関連する事業を取得したこと等により、314億円のマイナス
- フリーキャッシュフロー：40億円のマイナス

# 2019年3月期 通期業績見通し


No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS

## 通期見通し ①連結業績

■ 米国司法省関連の引当金計上、映像事業の業績動向を考慮し、売上高および各段階利益を修正

| （単位：億円） | 2019年3月期 8月7日公表見通し | 2019年3月期（最新見通し） | 増減 | 前回見通し比 | 2018年3月期 |
|---|---|---|---|---|---|
| 売上高 | 8,000 | 7,900 | ▲100 | ▲1% | 7,865 |
| 売上総利益（売上総利益率） | 5,270 (65.9%) | 5,220 (66.1%) | ▲50 | ▲1% | 5,105 (64.9%) |
| 販売費および一般管理費（販売費および一般管理費率） | 4,380 (54.8%) | 4,380 (55.4%) | 0 | 0% | 4,266 (54.2%) |
| その他の収益および費用等 | ▲310 | ▲400 | ▲90 | - | ▲29 |
| 営業利益（営業利益率） | 580 (7.3%) | 440 (5.6%) | ▲140 | ▲24% | 810 (10.3%) |
| 税引前利益（税引前利益率） | 530 (6.6%) | 390 (4.9%) | ▲140 | ▲26% | 767 (9.7%) |
| 親会社の所有者に帰属する当期利益（親会社の所有者に帰属する当期利益率） | 400 (5.0%) | 260 (3.3%) | ▲140 | ▲35% | 571 (7.3%) |
| EPS | 117円 | 76円 | | | |
| 円／USドル | 106円 | 108円 | ＋2円(円安) | | |
| 円／Euro | 130円 | 130円 | - | | |

**2019年3月期配当**

年間配当30円を予定（変更なし）

OLYMPUS

 No data copy / No data transfer permitted

- 通期見通し
- 米国司法省による調査関連の引当金を計上したこと、および映像事業の競争激化を踏まえた業績動向を考慮し、各段階利益を下方修正
- 為替レートは、第3四半期以降の前提は期初と変わりないものの、上期実績を反映し、通期で1ドル108円、1ユーロ130円を想定
- 配当は、当期の中間配当は実施せず、期末配当として1株当たり30円を予定

## 通期見通し ②セグメント別業績

■ 医療事業 ：米国司法省関連の引当金計上の影響により、営業利益を修正
■ 映像事業 ：2Q実績を踏まえて売上高、営業利益を修正

| （単位：億円） | | 2019年3月期 8月7日公表見通し | 2019年3月期 最新見通し | 増減額 | 前回見通し比 |
|---|---|---|---|---|---|
| 医療 | 売上高 | 6,340 | 6,340 | - | - |
| | 営業利益 | 1,350 | 1,270 | ▲80 | ▲6% |
| 科学 | 売上高 | 1,000 | 1,000 | - | - |
| | 営業利益 | 70 | 70 | - | - |
| 映像 | 売上高 | 600 | 500 | ▲100 | ▲17% |
| | 営業利益 | ▲70 | ▲130 | ▲60 | ▲60 |
| その他 | 売上高 | 60 | 60 | - | - |
| | 営業利益 | ▲60 | ▲60 | - | - |
| 全社・消去 | 売上高 | - | - | - | - |
| | 営業利益 | ▲710 | ▲710 | - | - |
| 合計 | 売上高 | 8,000 | 7,900 | ▲100 | ▲1% |
| | 営業利益 | 580 | 440 | ▲140 | ▲24% |

 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- セグメント別の業績見通し
- 医療事業は、引当金の計上により、営業利益を80億円下方修正
- 科学事業は、売上高、営業利益ともに前回見通しから変更なし
- 映像事業は、売上高は100億円、営業利益は60億円、下方修正

# トピックス


No data copy / No data transfer permitted

## セグメント別トピックス

| | |
|---|---|
| 医療 科学 | ■ 東大発AIベンチャー「エルピクセル株式会社」へ出資し、内視鏡／顕微鏡画像診断支援のAI技術開発を強化<br>✓ これまでも共同研究を進めており、両社の保有する膨大な画像情報を活用してAI技術開発をさらに強化<br>✓ 今後の業務提携も視野に入れて協議予定 |
| 医療 | ■ イスラエル医療機器会社「Medi-Tate」に出資し、泌尿器ビジネス領域における製品競争力を強化<br>✓ Medi-Tate社の技術を活用し、前立腺肥大症（BPH）の治療用デバイスのポートフォリオを拡大 |
| 科学 | ■ オリンパスが独自開発したディープラーニング技術を使用し、呉医療センター・中国がんセンターとAI病理診断支援ソフトウェアの共同研究を実施 |
| 映像 | ■ 黒字化構造の確立に向けて、ベトナム生産子会社へのデジタルカメラの生産集約は順調に進捗 |

 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- セグメント別に4点のトピックス

- 1点目は、「エルピクセル社」への出資
- エルピクセル社は、医療・製薬・農業などのライフサイエンス領域の画像解析に強みを持つ東京大学発のAIベンチャー企業
- これまでも、両社による共同研究を進めていたが、今回の出資により、内視鏡および顕微鏡画像診断支援のAI技術開発をさらに強化する
- 今後は業務提携も視野に入れ、新たな協力体制について協議を進めていく予定

- 2点目は、イスラエル医療機器会社「Medi-Tate」への出資
- Medi-Tate社は、前立腺肥大症の治療用デバイスの研究開発、製造、販売を行う医療機器メーカー
- 前立腺肥大症は、高齢者の約40%に発生する病気であり、今後も増加が予想される
- Medi-Tate社の技術を活用し、前立腺肥大症の治療用デバイスのポートフォリオを拡大することで、泌尿器科事業の成長を加速していく

- 3点目は、科学事業におけるAI病理診断支援ソフトウェアの共同研究実施
- 検査機器の発展によってがんなどの早期発見が可能となり、病理診断の需要が増えている一方、病理医は、多くの病院で不足
- この対策として注目されているのが、画像診断に強みを持つAIによる病理診断
- オリンパスは、独自開発したディープラーニング技術を使用し、呉医療センター、中国がんセンターと共同研究を実施
- 当社の病理研究用顕微鏡は高いシェアを持っており、今後も病理医の負担軽減につながるAIによる病理診断支援の研究開発に取り組んでいく

- 4点目は、映像事業の生産構造改革の進捗
- 今期は、生産構造改革費用の計上や競合環境激化もあり、厳しい1年となるが、ベトナム生産子会社へのデジタルカメラの生産集約は順調に進捗
- この生産構造改革を着実に進め、来期以降の黒字化構造の確立を目指していく

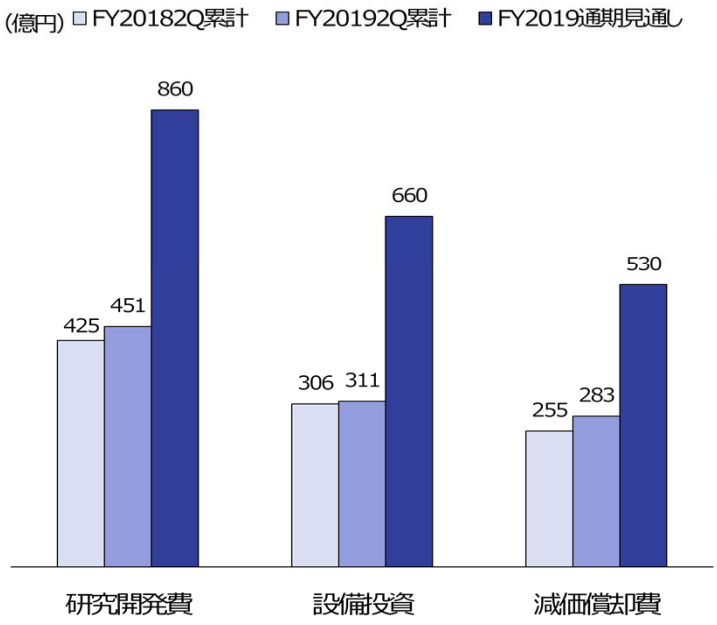
OLYMPUS

# Appendix

 No data copy / No data transfer permitted

# 【参考資料】投資等（研究開発費、設備投資、減価償却費）

## 2Q累計実績および通期見通し




## 研究開発費詳細

| (単位：億円) | FY2018(*1) | FY2019 | |
|---|---|---|---|
| | 2Q累計 | 2Q累計 | 通期見通し |
| 研究開発費<br>(対売上高比率) | 425<br>*(11.5%)* | 451<br>*(11.8%)* | 860<br>*(10.9%)* |

## ご参考

| (単位：億円) | FY2018 | FY2019 | |
|---|---|---|---|
| | 2Q累計 | 2Q累計 | 通期見通し |
| 開発費資産化(＊2) | 55 | 45 | 120 |
| 償却費 | 28 | 35 | |
| | 2018年6月末 | 2018年9月末 | |
| 開発資産残高 | 332 | 338 | |

（＊1）研究開発費の集計方法変更に伴う影響を除いた金額。
なお、集計方法変更に伴う影響を含めた金額は、471億円です
（＊2）開発費資産化の数値は上段の研究開発費に含まれています

OLYMPUS


No data copy / No data transfer permitted

# 2019年3月期 第2四半期実績 セグメント別その他の損益

| (単位：億円) | | | FY2018 | | | FY2019 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 1Q | 2Q | 年間 | 1Q | 2Q |
| 医療 | 売上高 | | 1,344 | 1,548 | 6,163 | 1,439 | 1,617 |
| | 営業利益 | | 232 | 322 | 1,218 | 274 | 273 |
| | | その他の損益 | ▲8 | ▲7 | ▲17 | 10 | ▲78 |
| 科学 | 売上高 | | 200 | 246 | 1,000 | 211 | 262 |
| | 営業利益 | | ▲6 | 18 | 64 | ▲4 | 32 |
| | | その他の損益 | 0 | ▲2 | ▲5 | ▲1 | ▲1 |
| 映像 | 売上高 | | 151 | 154 | 603 | 139 | 118 |
| | 営業利益 | | 9 | 7 | ▲12 | ▲58 | ▲34 |
| | | その他の損益 | 0 | 0 | ▲13 | ▲49 | ▲4 |
| その他 | 売上高 | | 23 | 27 | 99 | 17 | 16 |
| | 営業利益 | | ▲5 | ▲7 | ▲50 | ▲7 | ▲7 |
| | | その他の損益 | 1 | 1 | ▲6 | 1 | 0 |
| 全社・消去 | 売上高 | | - | - | - | - | - |
| | 営業利益 | | ▲103 | ▲93 | ▲410 | ▲322 | ▲117 |
| | | その他の損益 | 3 | 6 | 13 | ▲210 | ▲4 |
| 連結合計 | 売上高 | | 1,718 | 1,976 | 7,865 | 1,806 | 2,013 |
| | 営業利益 | | 127 | 247 | 810 | ▲116 | 146 |
| | | その他の損益 | ▲5 | ▲1 | ▲28 | ▲250 | ▲87 |

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値


No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS